

令和4年度第4回イベントを開催しました！

日時：令和5年3月4日(土)AM9:30~12:00

場所：大池公園会議室と園内一帯

参加者：23名(住民11、東海緑樹5、東海市役所3、事務局4)

今年度最後のイベントは、今年度のさくら再生活動の総仕上げとして、施肥と支障木撤去及び施肥木への名札つけを行いました。

会議室での本日の予定等の説明を受けた後、早速今年度イベント実施区域で、第3回に引き続いて、公園管理事務所駐車場の東側植樹帯法面のウスミザクラ3本とその隣及び園路沿いのさくらへの施肥と肥料をあげた木に名ふだをつけました。

次に園内西側の南北主要園路にあるベンチ付近の池沿いのさくらを見下ろす位置で、視界を妨げている支障木の伐採等を行いました。

本日の作業で今年度予定の区域のサクラへの施肥は一通り終わり、支障木の伐採も目立つ箇所ほぼ終了できました。これもこのイベント

と、12月から継続していただいているボランティアの皆さんの地道な作業の賜物です。

大変ありがとうございました。

最後に、4月からこのプロジェクトへのご支援とご協力何卒よろしくお願いいたします。



会議室での様子

令和4年度イベントスケジュール

第1回イベント【2022年11月12日(土)】



『日当りを良くしよう』
専門家の指導のもと、さくらの周りの支障木や枝を伐採し、さくらの生育を促進させます。

第2回イベント【2022年12月3日(土)】



『さくらの健康を考えよう(その1)』
樹木医の先生からさくらの基礎知識や樹勢回復方法などを聞き、そのあと、さくらの元気度調べを行います。

第3回イベント【2023年2月18日(土)】



『さくらの健康を考えよう(その2)』
前回と同様に、樹木医の先生の指導のもと、さくらの根元の土を柔らかくして肥料をあげます。

第4回イベント【2023年3月4日(土)】



『肥料をあげた木に名ふだをつけよう』
施肥と、さくらに名ふだを付けさくらに興味を持ってもらいます。

このイベントの概要

- 大池公園(東海市中央町三丁目、面積約24.8ha)は1973年(昭和48年)に緩衝緑地として開園。さくらの名所として毎年春にはソメイヨシノ他のさくらが咲き誇り、最近ではライトアップも行われ花見の名所となっていますが、開園後約50年が経過しソメイヨシノ等の老木化が目立ってきました。
- 『大池公園さくら再生イベント』は、大池公園のさくらをこの先も楽しめるよう、市民の皆さんと東海市で協働して守り次世代に引き継いでいくと共に再生させ、名所としての魅力を付加することを目指して令和元年度に始まり継続しています。
- 『大池公園さくら再生イベント』は令和2年度に3回、同3・4年度に各4回、簡易な樹木管理を実施してきました。さくら再生事業は今後も実施方法を工夫して継続されていく見込みですので、ご期待ください。

第3回イベントでの施肥と土壌改良についての樹木医さんからのコメント

○ 広場のサクラの衰退を招いている大きな要因

⇒根系の生育範囲が浅く狭いこと

・施肥作業を行った広場のさくらの根は地表下10cm位にあった(予想は20~30cm)

・同様に根の範囲は樹冠下まで伸びていなかった(一般に樹冠の範囲程度に根は伸びる)

<原因>粘土層の硬い土質と人が踏み固める踏圧により根が地中に伸びられず、表層で雨水と空気を吸収する表層根と呼ばれる細い根で生活していると推測される。常に水と酸素が補給されるなら問題はないが、夏の乾燥期には表層にある細根は大きくダメージを受けてしまう。(空気は雨水と一緒に地中に入る)水が補給されれば伸びて、補給されなければ枯死しての繰り返しで、結局狭い範囲での根域しか確保できない状況にあり、当然その結果は上部の幹、枝葉に影響が出てくる。

○ 対策

⇒穴を掘って堆肥をすきこむ土壌改良を継続することと、根元周囲を立入りできないよう人止め柵を設置することが有効だと思われる。

・人止め柵は公園の性格上、「立入禁止」よりは少し柔らかな感じの方が良いと思われる。何が適当なのか皆で考えてみるのも良い。

・よく地被や草花などの植栽を根元周りに植えて人が近づかないようにする対策も取られるが、今回、サクラの根域が地表下10cm位のためさくらと植栽の根が競合したり、植栽時にさくらの根を傷める危険性が大きいので避けた方が無難。

○ 将来展望

・これら取り組みをしてこの広場の5本のさくらが再生したなら、プロジェクト参加者も手ごたえを感じることができるのではないかな。

・幸いさくらは反応が速いので、土壌改良と衰弱枝の切除、萌芽枝の整理などを繰り返すと数年で良くなると思う。

・今後、さくらを保全する活動の継続を期待するならば、目に見えるさくら再生の成功例が是非とも必要だと思う。

さくらの元気回復度を知る方法(案)

これまでイベントの中で、さくらの元気度を知る方法として樹木医さんから説明を受けたのは、①花卉の数を数える、②葉の茂る前に「枝の伸び具合」の確認を行う等。②は、枝の先端から最初にある芽鱗痕(がりんこん:芽鱗は休眠芽を覆う鱗状小片で、前年の芽鱗が着いたところに残る痕が芽鱗痕)までが前年に伸びた枝、その元の芽鱗痕までがその前々年に伸びた枝なので、その長さを比較する方法等。その他、樹冠の広がり具合等の継続的な撮影と記録や専門家(樹木医)による精密診断の実施等が考えられる。

今回樹木医さんから提案を受けたのは、①夏ぐらいに幹から出てくる「新しい枝(徒長枝:この枝を新たに育てて更新することもあり)」の確認と、②芽鱗痕間の長さを確認→木の上方での確認が分かりやすい(例:前年5cm⇒今年10cm等)の2方法。一般の方であれば、②については、確認位置が高くなる可能性もあり安全対策等が必要なので、①の方法が行い易いというものでした。



第3回WSでの広場の施肥状況



今回の参加の皆様

ボランティア活動を示すのぼりとヘルメット



今回の施肥と土壌改良の様子

施肥・土壌改良の作業状況

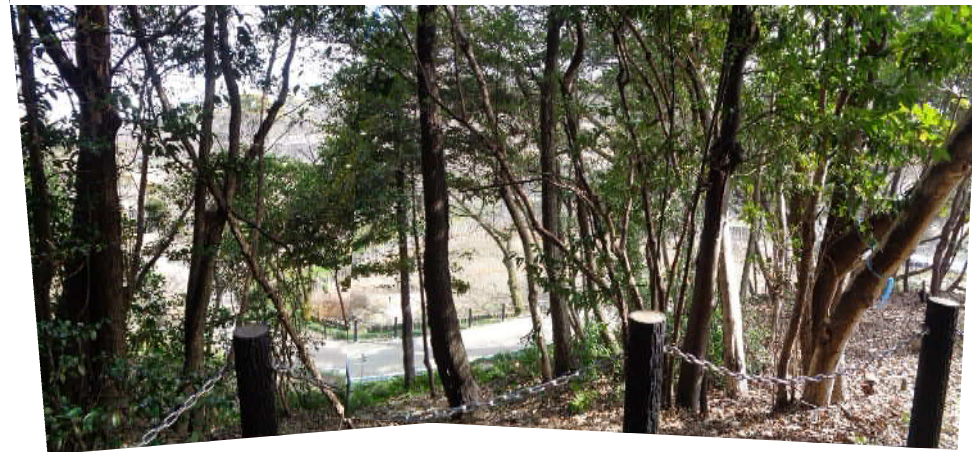
名ふだの設置状況



今回施肥・土壌改良した淡墨桜
 ・岐阜県本巣市根尾谷の樹齢1500年以上のエドヒガンザクラの古木の苗木を植えたもの(園内に4本あり)
 ・花弁の色が蕾～満開～散り際でピンク～白～薄墨色に変化する(名前の由来)。
 ・早咲き系で彼岸の頃、ソメイヨシノより若干早く開花する。
 ・年を経るにつれ幹が次第に柿の木の様に縦に剥がれる(他のさくらとの違い)。
 ・ソメイヨシノと違い、樹齢は長い、元気がないので施肥・土壌改良を実施した。



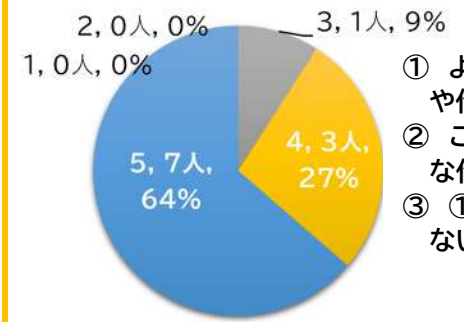
支障木伐採の作業前と作業後の比較(見通し確保)



第4回イベント参加者アンケート結果(回答数11)

1 参加した感想

1 参加したくない～5 また参加したい



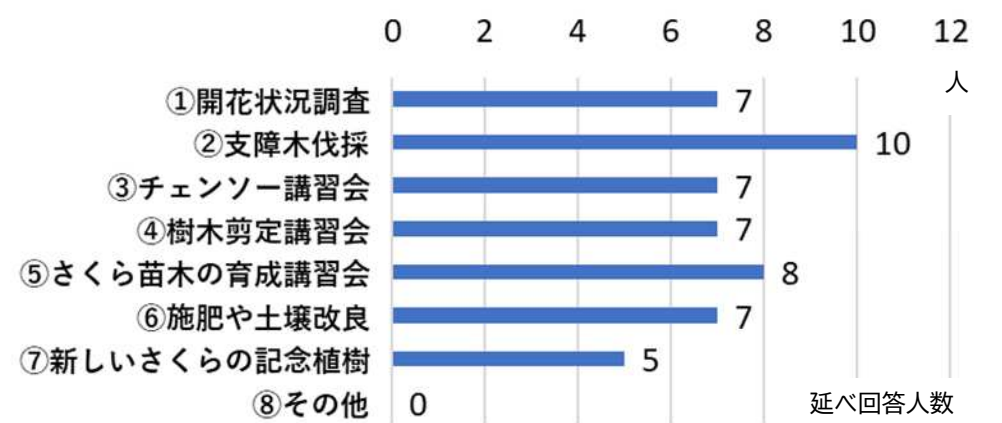
2 今後の活動内容



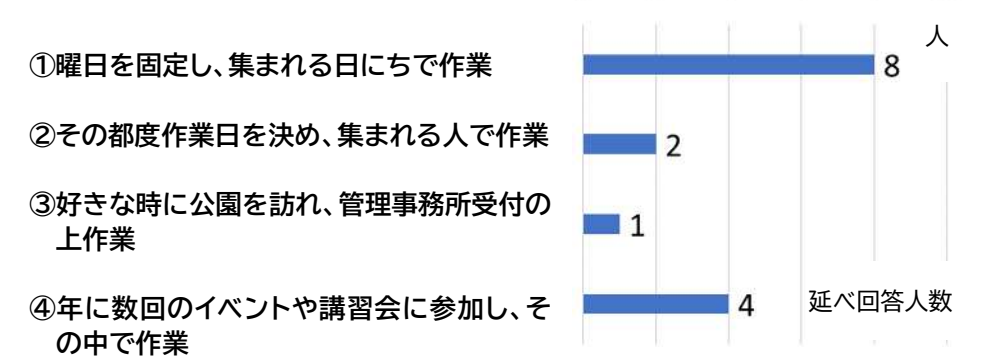
5の理由: 世代を超えた方々と皆でやりきる感覚を得られるから。

①伐採の規模が拡大する中で効率や安全性を高めた方が良いと思うから。
 ②専門的な作業は用具とか知識が必要になり安全の確保がむづかしい。ボランティアレベルが年齢層広く作業出来て良いと思います。

3 今後希望する活動項目



4 今後の活動の作業方法



①運営上最少催行人数などがあればその限りではありません。
 ②・③安全な作業の確保。

5 その他自由意見

・<提案>・さくら祭での活動展示 ・常設の立て看板の設置 ・傷付いたさくらのサポートという意味での里親スポンサー制度を
 ・桜をきっかけに、公園の他の木(植物)、桜・植物が元気に育つ環境(多様性)について、考えたり調べたり学んだりして私たちの生活と密接に関係していることに気づき、植物たちに感謝する気持ちを持てる仲間を増やしたいです。

今年度の“さくら再生ボランティア”活動まとめ

延べ14回・69人で、今年度イベント実施区域内で、施肥・土壌改良したサクラ:60本、支障木伐採60本、剪定60本。参加者の皆様、市のご担当者様お疲れ様でした。

活動日と市民等参加人数(AM9:30～2時間程度、市・管理職員等除く)

月	12月				1月						2月				3月	
	13日(火)	16日(金)	20日(火)	23日(金)	10日(火)	13日(金)	17日(火)	20日(金)	24日(火)	27日(金)	7日(火)	10日(金)	14日(火)	17日(金)	28日(火)	3日(金)
参加人数	中止	3人	6人	4人	5人	4人	4人	4人	5人	3人	6人	中止	7人	4人	7人	7人
作業内容	-	剪定	剪定	剪定	剪定	剪定	剪定	剪定	剪定	施肥	施肥	施肥	-	施肥	施肥	施肥

